

編集後記

■前回の「教えて！にちぎん」に続いて、今回「日本銀行のレポートから」の連載を開始しました。日銀の広報誌がどうあるべきかについて、読者の皆さんからさまざまなご意見を頂戴していますが、米国のサブプライム・ローン問題に端を発した世界的な金融危機に直面する中で、「国民の皆さんに日銀の機能や役割、日本経済についての見方を知っていただく」という広報誌としての本来の趣旨をより強く意識する必要があるのではないかと考え、今回このような見直しを行いました。

なお、「インタビュー」や「地域の底力」では、引き続き読者の皆さんを元気付けるような人物や地域の活動を取り上げていきたいと思ひます。改めて読者の皆さまのご意見をお待ちしています。（恵谷）

■山形県の山形工房をお訪ねしました。杉本博司先生も「日本の職人の技術や勤勉さは今も大したものだ」とおっしゃっていましたが、高い技術力を持つ山形工房が世界で評価を得たことは当然のことだと思います。地道に技を磨きどんな要求にも応えようと創意工夫を凝らす姿勢は気概と誇りにあふれ、“使われてこそ道具”と言い切る真摯な姿勢にも感動を覚えます。使い捨て文化に浸る現代にあって、丹精を凝らした道具は、使う側にも道具を大切にすることを持ち呼び起こします。50年間愛用した椅子の修理を依頼されたこともあったそうです。イタリアのカロツェリアの職人は、社会的にも経済的にも高い地位を得ていると聞きます。山形版カロツェリアの成功を願ってやみません。（A U）

※本誌は、全国の日本銀行本店および貨幣博物館、旧小樽支店金融資料館等でお配りしています。個人の方の定期購読、郵送はお取り扱いしておりませんのでご了承ください。なお、既刊号全文をPDFファイル形式で日本銀行ホームページ上に掲載していますのでご利用ください。

(<http://www.boj.or.jp/type/pub/nichigin.htm>)

※本誌に掲載している内容は、必ずしも日本銀行の見解を反映しているものではありません。日本銀行の政策・業務運営に関する公式見解については、日本銀行ホームページ(<http://www.boj.or.jp/>)をご覧ください。

にちぎん 2008年 冬号
編集・発行人 恵谷英雄
発行 日本銀行情報サービス局
〒103-8660
東京都中央区日本橋本石町2-1-1
☎03-3277-2405

デザイン 株式会社市川事務所
印刷 株式会社廣済堂
©日本銀行情報サービス局 禁無断転載

*本誌の用紙は、環境・社会・経済のすべての側面に配慮した厳しい基準に従って適切に管理された森林からの木材を原料としていることを示す、FSC認証紙を使用しています。



【副総裁】
山口廣秀
[やまぐち・ひろひで]
昭和26年3月6日生
出身地 神奈川県

昭和49.3 東京大学経済学部卒業
49.4 日本銀行入行
平成 4.4 調査統計局物価統計課長
5.5 大阪支店営業課長
7.5 営業局金融課長
8.5 高松支店長
10.5 経営企画室参事
16.7 企画局長
18.2 日本銀行理事
20.10 日本銀行副総裁

日本銀行新副総裁就任
▼日本銀行の副総裁が交替しましたので、新しい副総裁をご紹介します。

「にちぎん体験」市民講座&企画展」開催

▼日本銀行本店では、十一月二日（日）から十四日（金）にかけて、「にちぎん体験」市民講座&企画展」を開催し、たくさんの方々にご参加いただきました。

「企画展——お金の話あれこれ&にちぎん誕生——」では、お金や日本銀行などをテーマにしたパネルを閲覧いただくとともに、重さを実感できる一億円（模擬券）のバックや小判のレプリカなどを体験していただきながら、お金にまつわるあれこれを知っていただけたかと思ひます。

また、十一月二日（日）に特別企画として開催しました「市民講座」では、わが国のお金の歴史や国の重要文化財に指定され

ている本館の建物をテーマに、本行関係者からご説明いたしました。同時に、本店本館の見学ツアーを行い、本館地下金庫をはじめ、建物内部をご覧いただき、その歴史や日本銀行の業務内容についてご案内させていただきました。



本店内で開催された市民講座